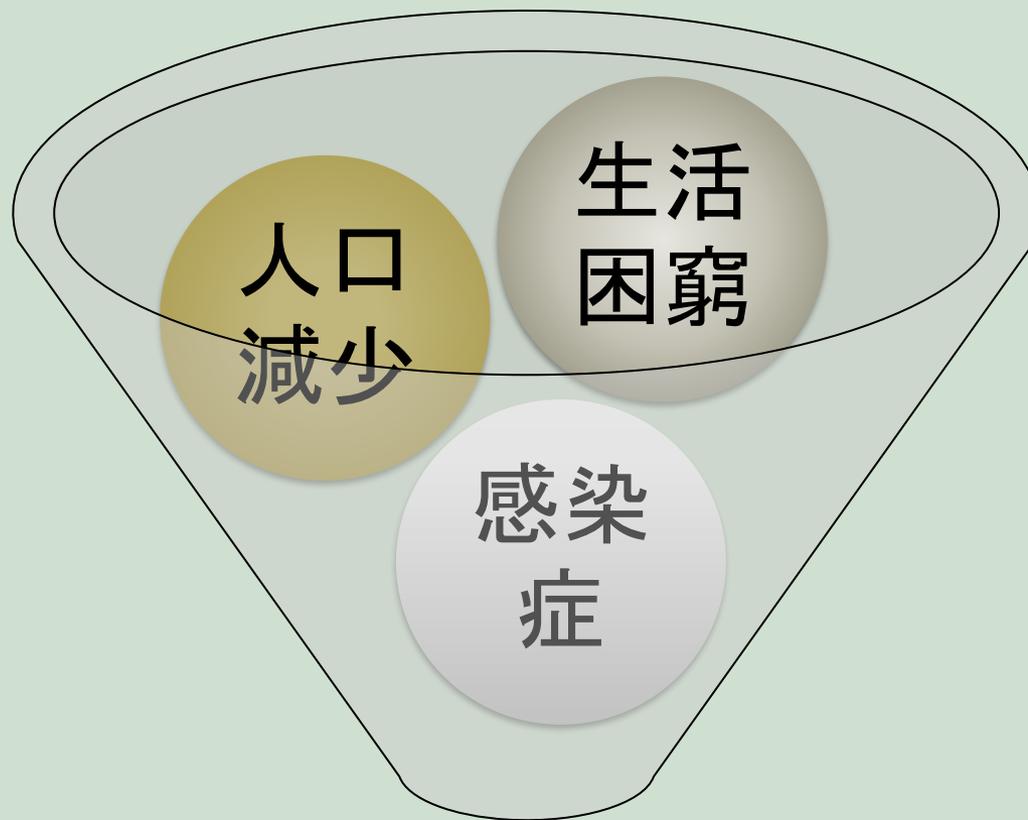


住民のありたい姿を実現するための 地域づくり

～心配ごとを困りごとにしない、連携・協働・連動について～

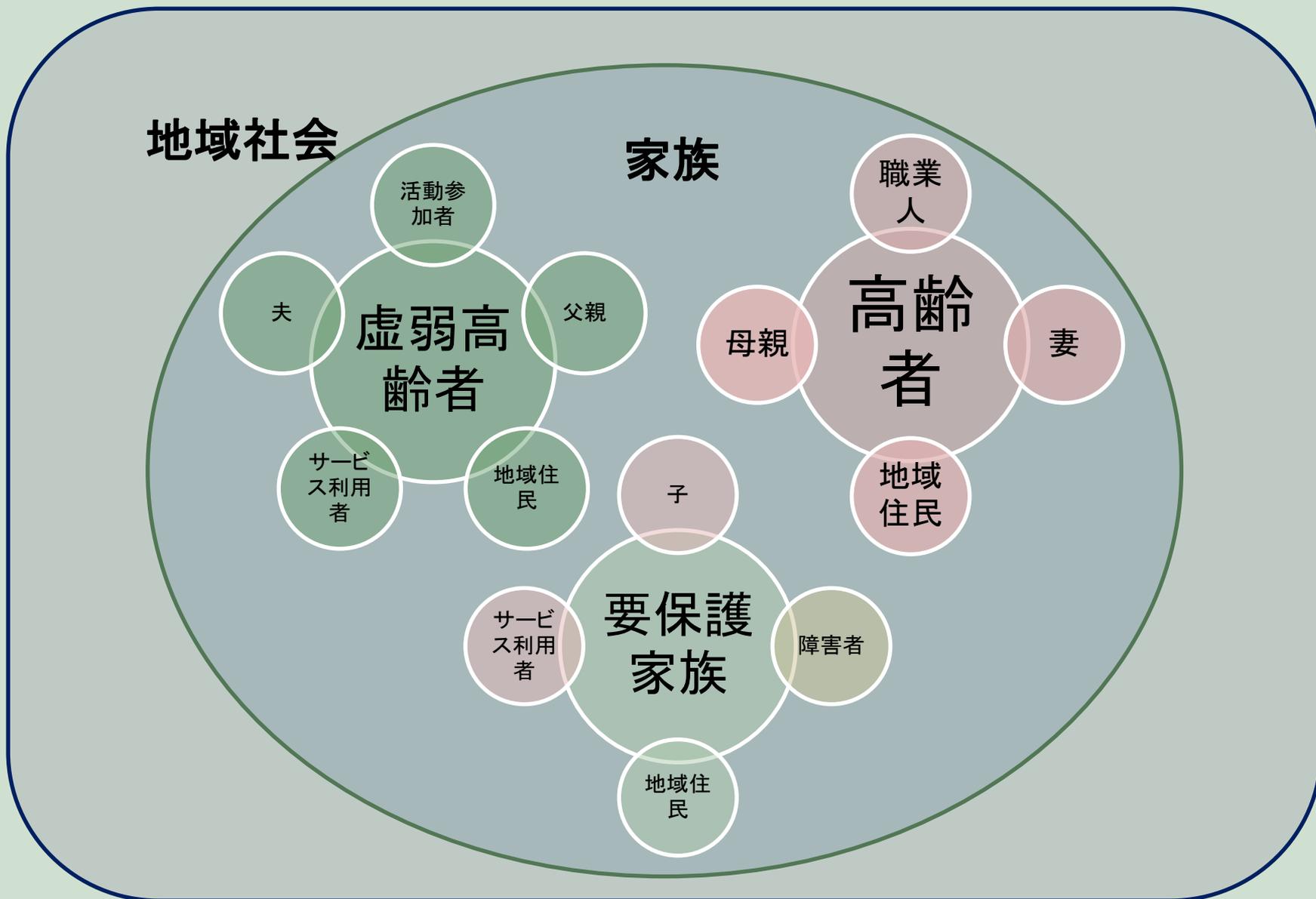
東北こども福祉専門学院
大坂純

21世紀の最大の課題



社会的孤立

多面的な存在としての家族が地域で暮らす



今、地域で起きていること



住民の願い

行政や社会福祉協議会が行う各種計画(総合計画・地域福祉計画・介護保険事業計画・地域福祉活動計画等)で行う住民意向調査の結果では、「何時までも住みなれた地域で、自分らしく暮らし続けたい」が、上位になる



コロナウィルスの影響

健康が奪われる



地域のつながりが切れ
孤立化する



家庭崩壊



楽しみが奪われる



倒産・失職



友人知人との
つながりが切れる



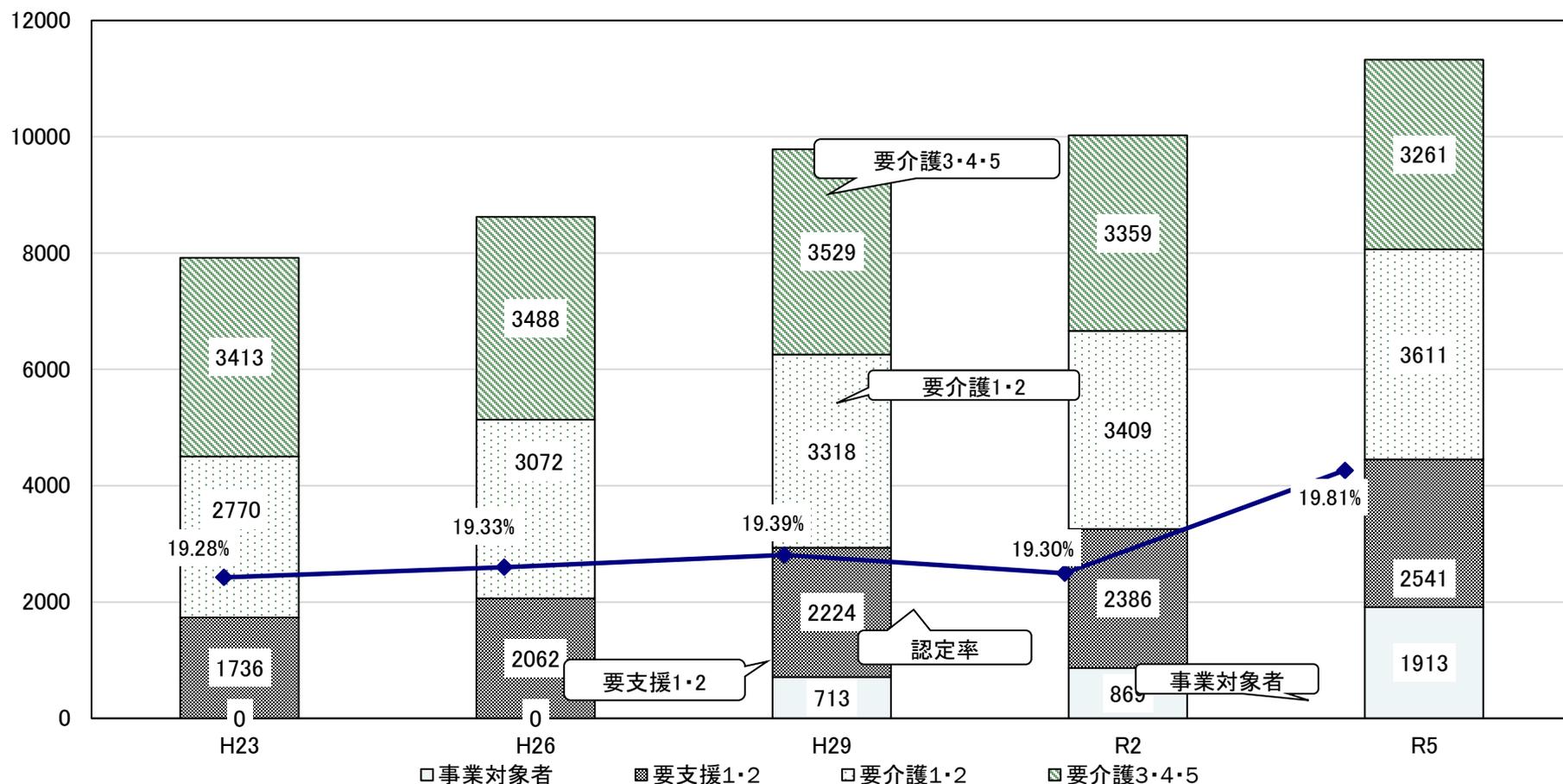
新型感染症の暮らしへの影響

- 心身の健康が脅かされる
- 自然な支え合いが切れたり薄れたりする
- 暮らしを楽しみづらい環境になる
- 日常の活動性が下がる
- 生活課題が顕著化する

新型感染症禍で見た活動継続の脆弱性

- 活動の目的が明確で無いものは、優先順位が低い
- 環境の急激な変化に対応した短期の活動継続に困難さがある
- 活動の目的が参加者に浸透していないと、活動再開が困難になったり、活動を再開しても参加者が減少する

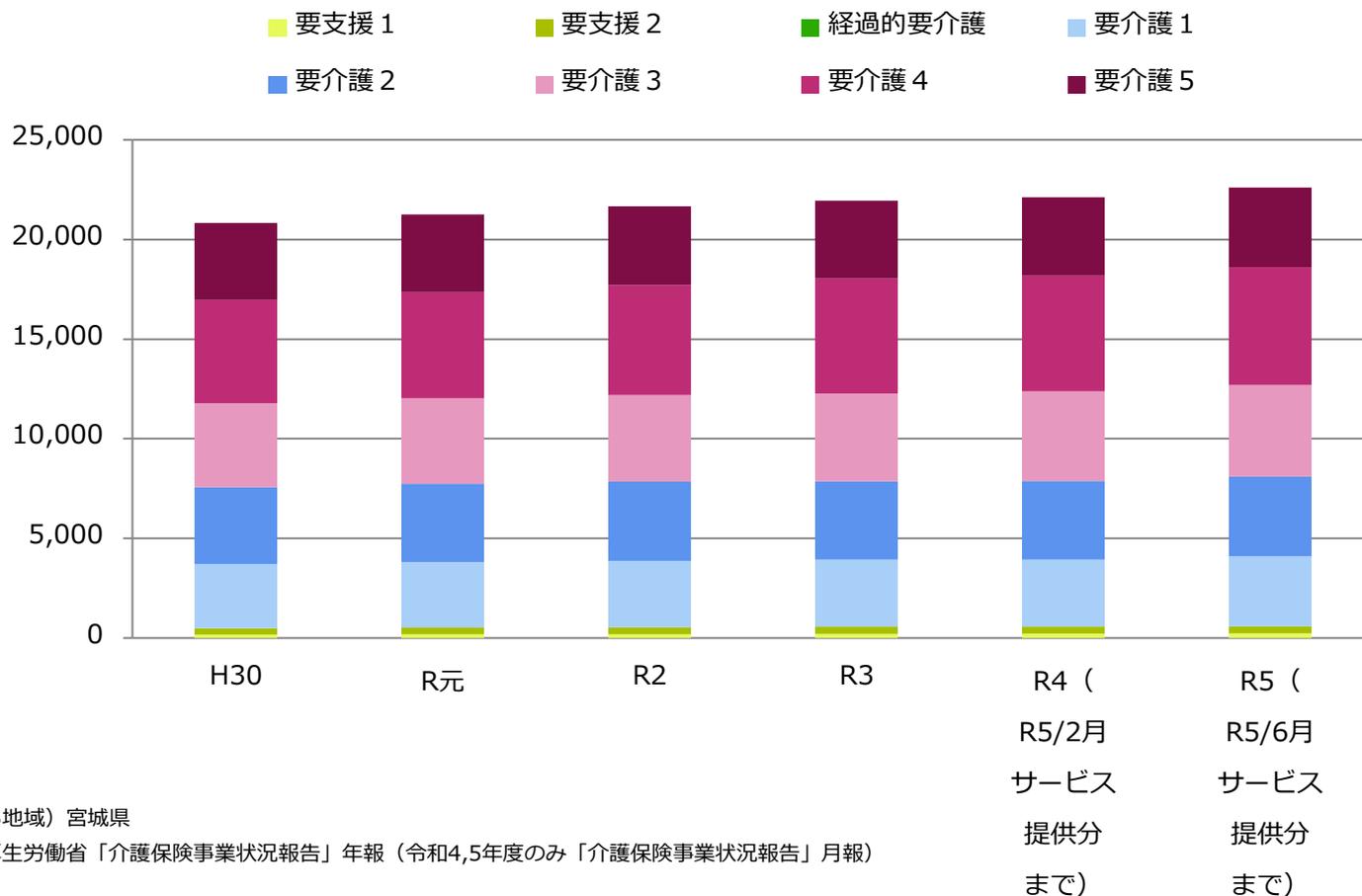
要介護認定者数(第2被保険者及び事業対象者含む)と認定率の推移(各年10月1日現在)(A市)



※ 認定率は認定者数(事業対象者を除く)を65歳以上の人口で除して算出しています。
 ※ グラフ上部の上段が事業対象者を含む認定者数、下段がと事業対象者を含まない認定者数となります。

第1号被保険者1人あたり給付月額(要介護度別) 宮城県(例示)

第1号被保険者1人あたり給付月額(要介護度別) (宮城県)



要介護状態になった主な原因

介護が必要となった主な原因

	第1位	第2位	第3位
総数	認知症	脳血管疾患（脳卒中）	骨折・転倒
要支援1	高齢による衰弱	関節疾患	骨折・転倒
要支援2	関節疾患	骨折・転倒	高齢による衰弱
要介護1	認知症	脳血管疾患（脳卒中）	骨折・転倒
要介護2	認知症	脳血管疾患（脳卒中）	骨折・転倒
要介護3	認知症	脳血管疾患（脳卒中）	骨折・転倒
要介護4	脳血管疾患（脳卒中）	骨折・転倒	認知症
要介護5	脳血管疾患（脳卒中）	認知症	骨折・転倒

介護保険制度と地域包括ケア



介護保険制度の基本理念

第一章 総則

(目的)

第一条 この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

(国民の努力及び義務)

第四条 国民は、自ら要介護状態となることを予防するため、加齢に伴って生じる心身の変化を自覚して常に健康の保持増進に努めるとともに、要介護状態となった場合においても、進んでリハビリテーションその他適切な保健医療サービス及び福祉サービスを利用することにより、その有する能力の維持向上に努めるものとする。

2 国民は、共同連帯の理念に基づき、介護保険事業に要する費用を公平に負担するものとする

介護保険の捉え方

自立 要支援 要介護

チェックリスト該当 要支援 要介護

これまでの介護保険利用の方向

介護保険法の重要キーワード

阻害要因

促進要因

尊厳の
保持

遠慮

社会参加

自立
支援

あきらめ

リハビリテーション
(通所型Cなど)

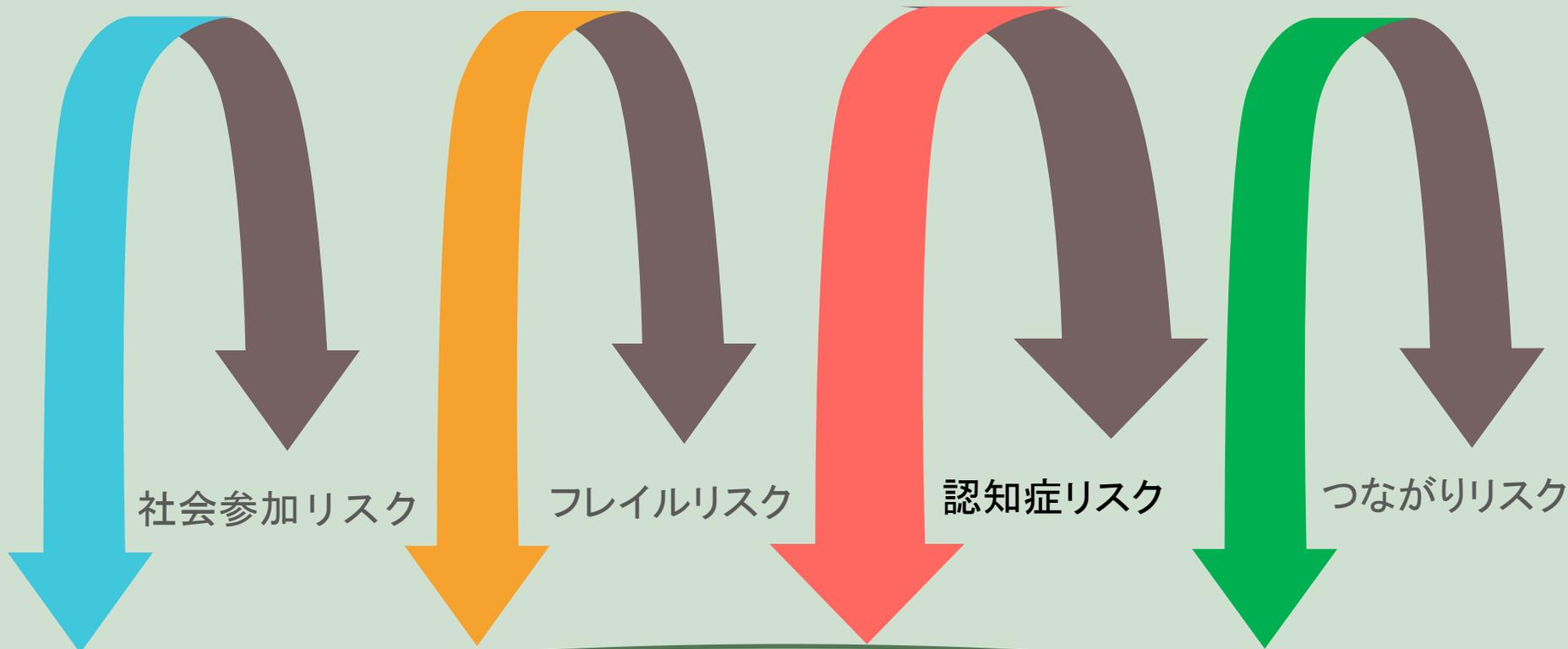
重度化
防止

知識不足

啓発広報

社会参加・生活支援・介護予防・認知症予防の 連動で住民のありたい姿を実現

健康寿命リスクには、**可逆性**がある



生活支援総合事業 + 介護予防事業 + 認知症総合支援事業 + 生活支援体制整備事業

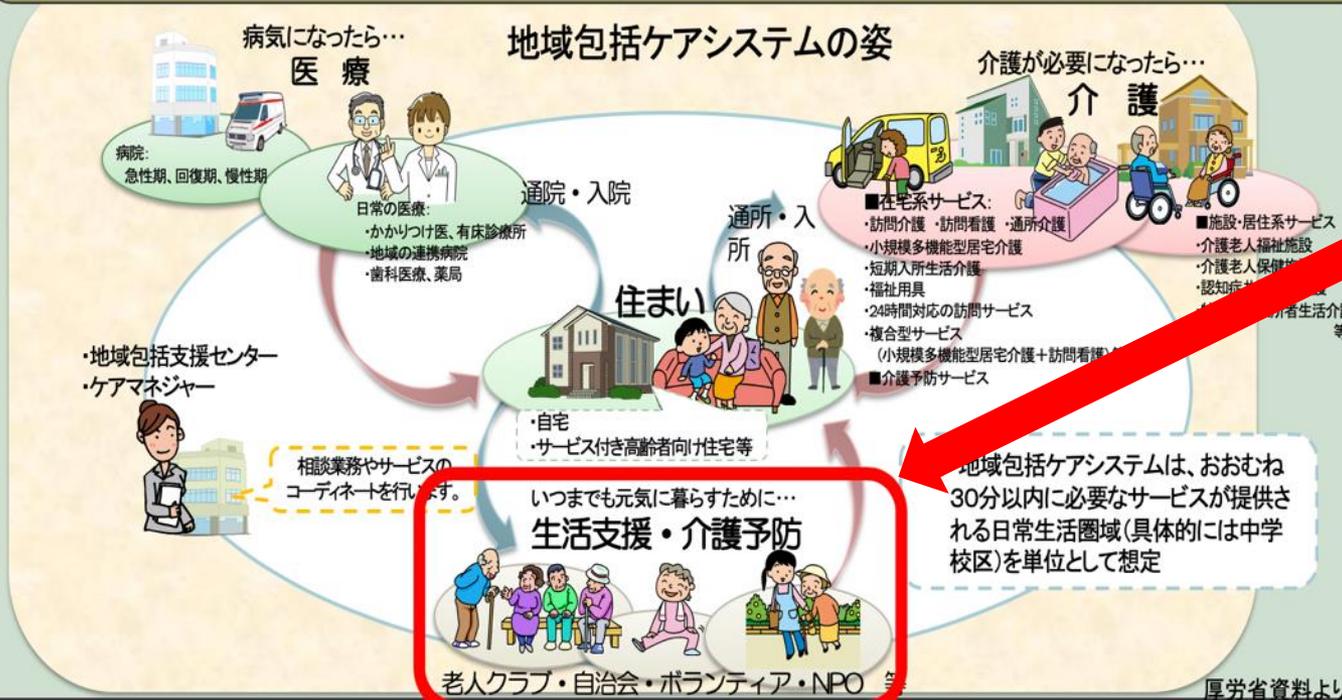
地域包括ケアと地域の支え合い

地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、**重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**

ここが、住民の願い

この住民の願いをかなえるための仕組みが、地域包括ケアシステム



1. 住み慣れた場所で、元気に楽しく暮らし続けるための介護予防

2. ちょっと困ったときのお互いさまの支え合いが生活支援

1と2が一体となって皆の願いをかなえる

住民の願いをかなえる 地域包括ケア

住民の願いは、いつまでも住み慣れた地域で
自分らしく暮らすこと



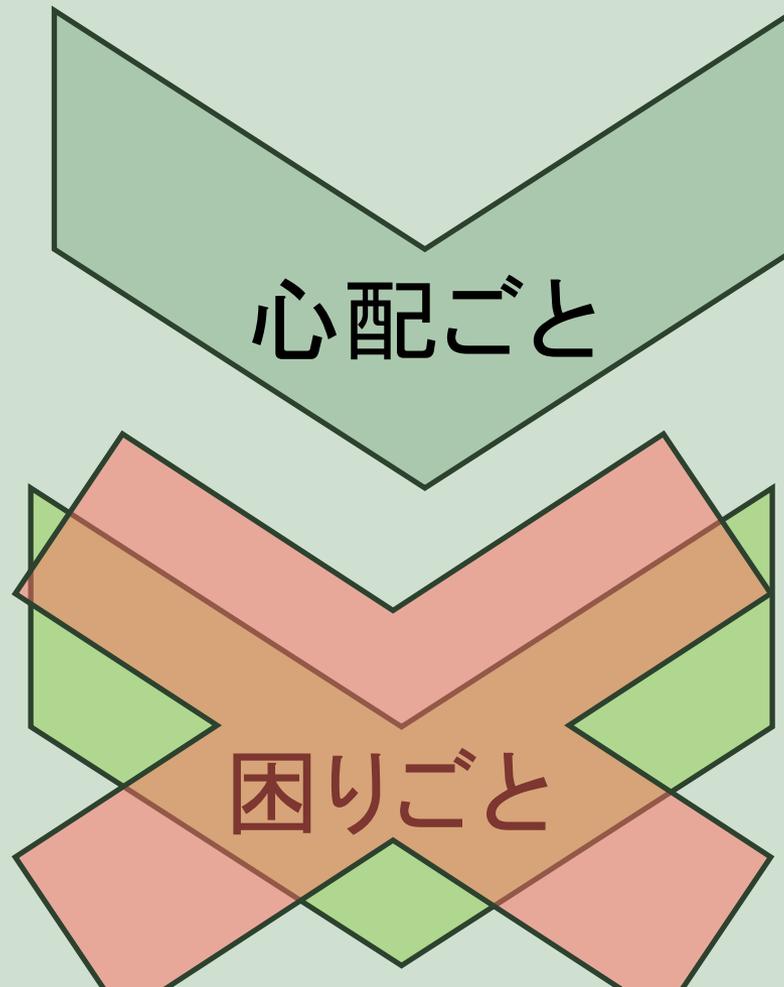
自分らしく暮らすことが**日常**



日常を維持したり、取り戻すための仕組みが
地域包括ケア

地域包括ケアとは

心配ごとを困りごとにならない仕組み



地域づくりの加速化を支えるもの



手段を目的にしない

手段 ≠ 目的

例えば

会議体を作る

相互乗り入れの部署を作る

共同で計画を作る

これは手段である

課題とは何か

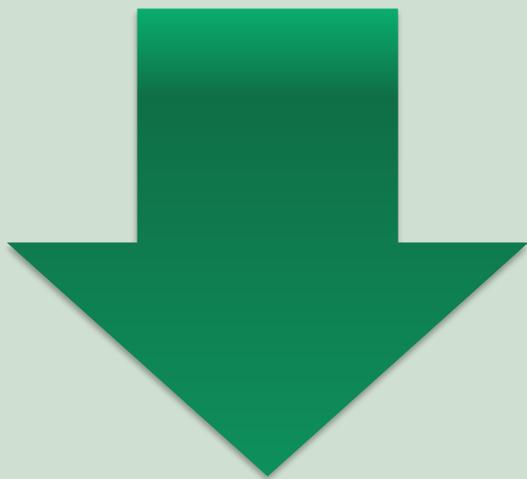
現状 ≠ 課題

住民のありたい姿

ここに課題

地域の現状

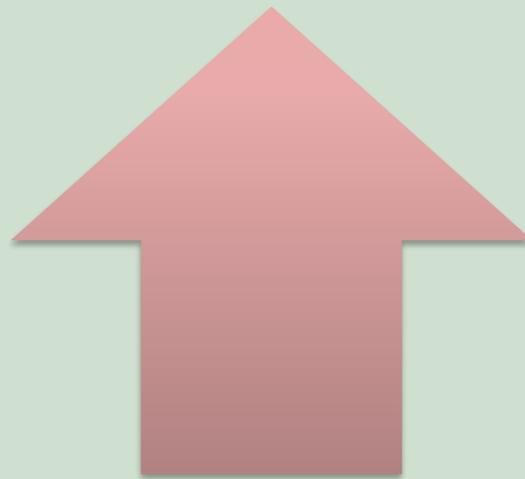
「わかる」と「できる」は違う



できる



わかる



地域づくりの推進は ありたい姿の共有から

ありたい姿の共有は、目的を明確にすること

住民のありたい姿は、暮らしの積み重ねの中に隠れている

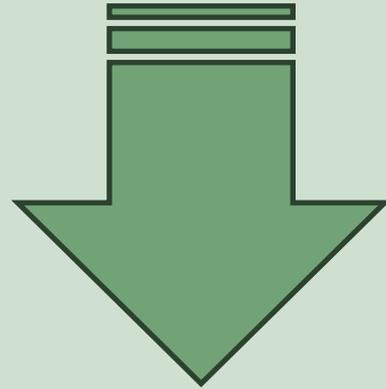
住民の話し合いにより暮らしの様々な行為には意味があることが意識化され、ありたい姿が現れる

地域づくりの加速化は根拠に基づく
戦略が重要（ストーリーを大切に）



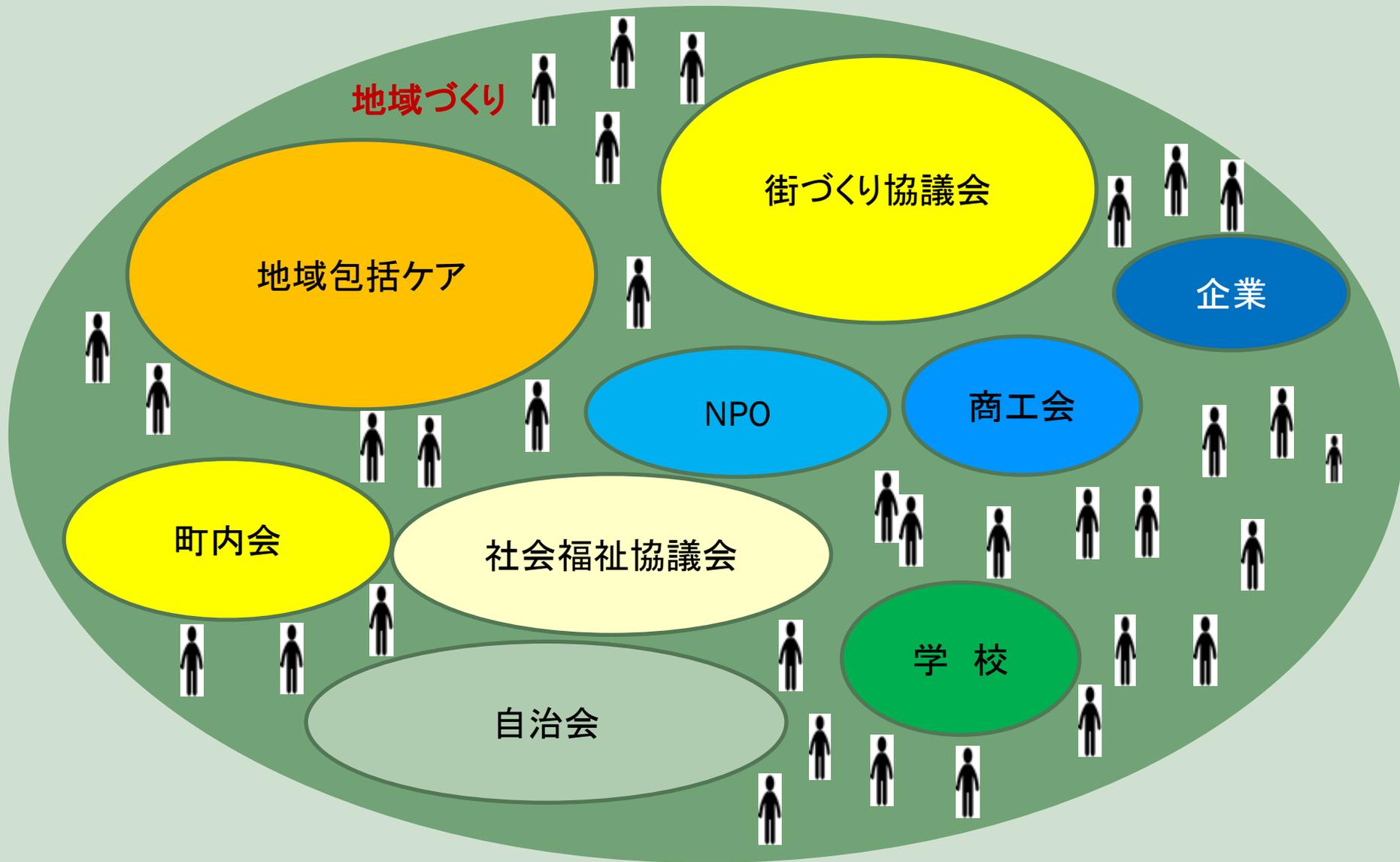
保健・医療・福祉分野における実装とは何か

実装



根づかせること

地域づくりとは何か



地域づくりとは

- 環境の変化に応じて暮らし続けるため、**様々な分野で行われている活動が折り重なって**、地域を豊かにしていくこと。
- 街づくりや地域包括ケアなどの様々な分野で行われている活動が、単独で完成できるものではない。
- 他分野の関係者間の連携協働はもちろんのこと、幅広い地域住民との協議の積み重ねが必要条件となる。

根拠に基づいて住民のありたい姿に 近づくにはデータの共有から

定性的データ

定量的データ

住民の日常

少子高齢化

住民のありたい姿

人口減少

地域のつながり

財政悪化

定性的データは、生活支援コーディネーターやケアマネージャー
定量的データは、保険者である行政担当者

協議して共有することが重要

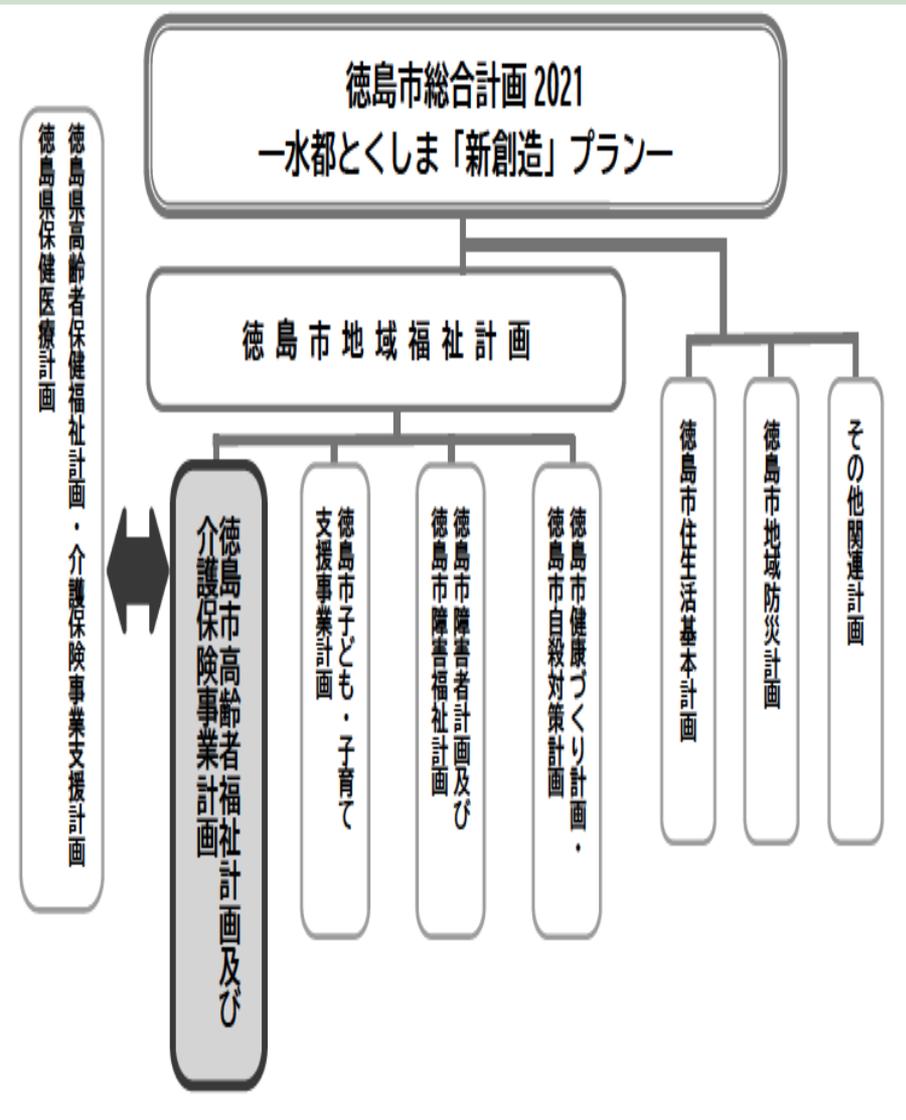
根拠に基づく地域づくりの推進

計画の関係性の例

徳島市における活動の根拠となる計画
(例示)

- * 徳島市総合計画2021
- * 高齢者福祉計画介護保険事業計画
- * 健康増進計画
- * 地域福祉計画
- * 地域福祉活動計画

その他の計画にも記載がある



生活支援体制整備事業は 地域包括ケア推進の重要事項

- 地域包括ケアの推進は、介護保険事業を支える重要施策
- 自治体の総合計画では、地域包括ケアの理念が盛り込まれていたり、高齢者保健福祉計画や介護保険計画では、地域包括ケア推進のための施策が多数位置づけられている
- 生活支援体制整備事業は、**住民のありたい姿を実現するための地域づくりの仕組み**として根拠に基づきに推進することが求められている

 生活支援体制整備事業は**行政の決めたことを住民に行わせることでは無い**

地域づくり加速化のポイント



こんな悩みがないですか

エビデンスのある取組みや「ベストプラクティス」について...

〇〇のやり方通り実施
したはずなのにうまく
いかなかった



あそこは特別だから
できたのかな

当たり前のことを
しただけですよ

たまたま〇〇だ
ったからですよ



この違いは何

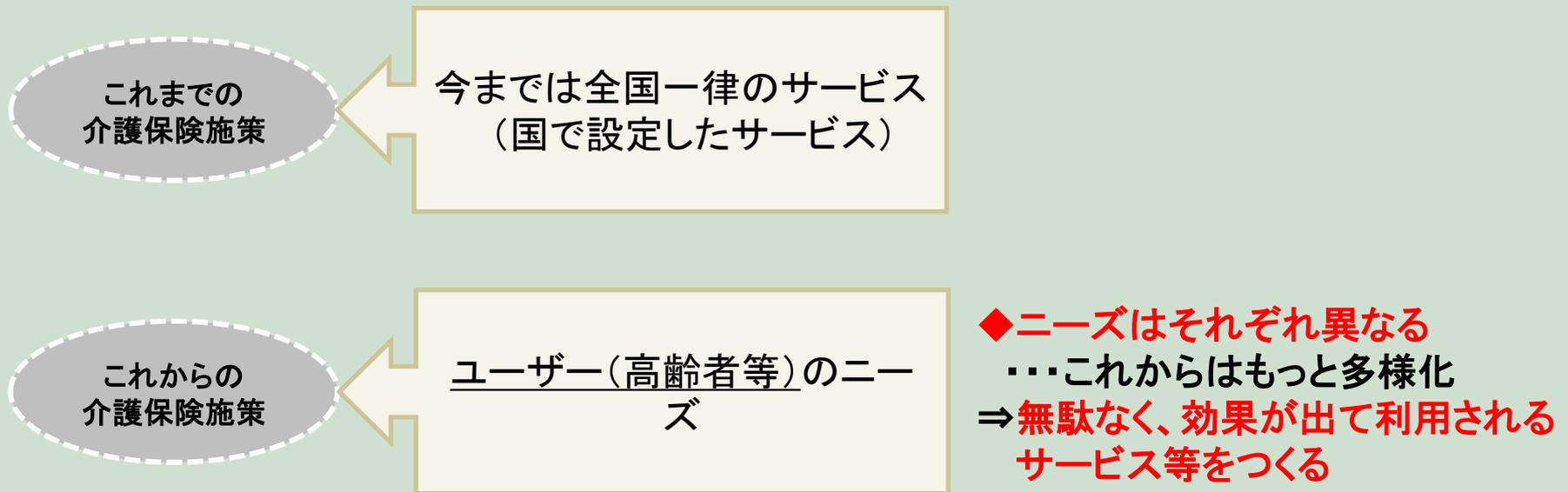
「うまく」いかなかった現場
後発的に取組んだ現場
(市町村、包括、社協等)

「うまく」いった現場
先進的に取組んだ現場
(市町村、包括、社協等)

共通の言葉（枠組み）が必要

高齢者のニーズに合ったサービス等の 創出・提供

- ・住民をはじめ、地域の多様性を認め合い、強みを強化していくためには、地域のニーズ（≒ユーザーのニーズ）を正確に捉えることが重要
- ・個人の適用性を高め、環境の応答性を良くするうえでは、法的な体制整備ではなく、ニーズに応じて体制を整える視点が肝要



高齢者のサービス利用に関するマインドセットを転換させる
プレゼンが必須！

高齢者のニーズをとらえるアイデア

最初の一歩を踏み出すためのアイデアとして・・・

地域の高齢者に長く健康で
暮らし続けてほしい

地域の高齢者の介護予防を進めるために住民主体の
通いの場を新しく整備する

- ユーザーとして的高齢者にとって・・・
「長く健康でいたい」ことと「介護予防に取り組みたい」ことはイコールではない
- サプライヤーとして的高齢者にとって・・・
「地域住民とつながりをもつ」ことと「通いの場に参加する」ことはイコールではない

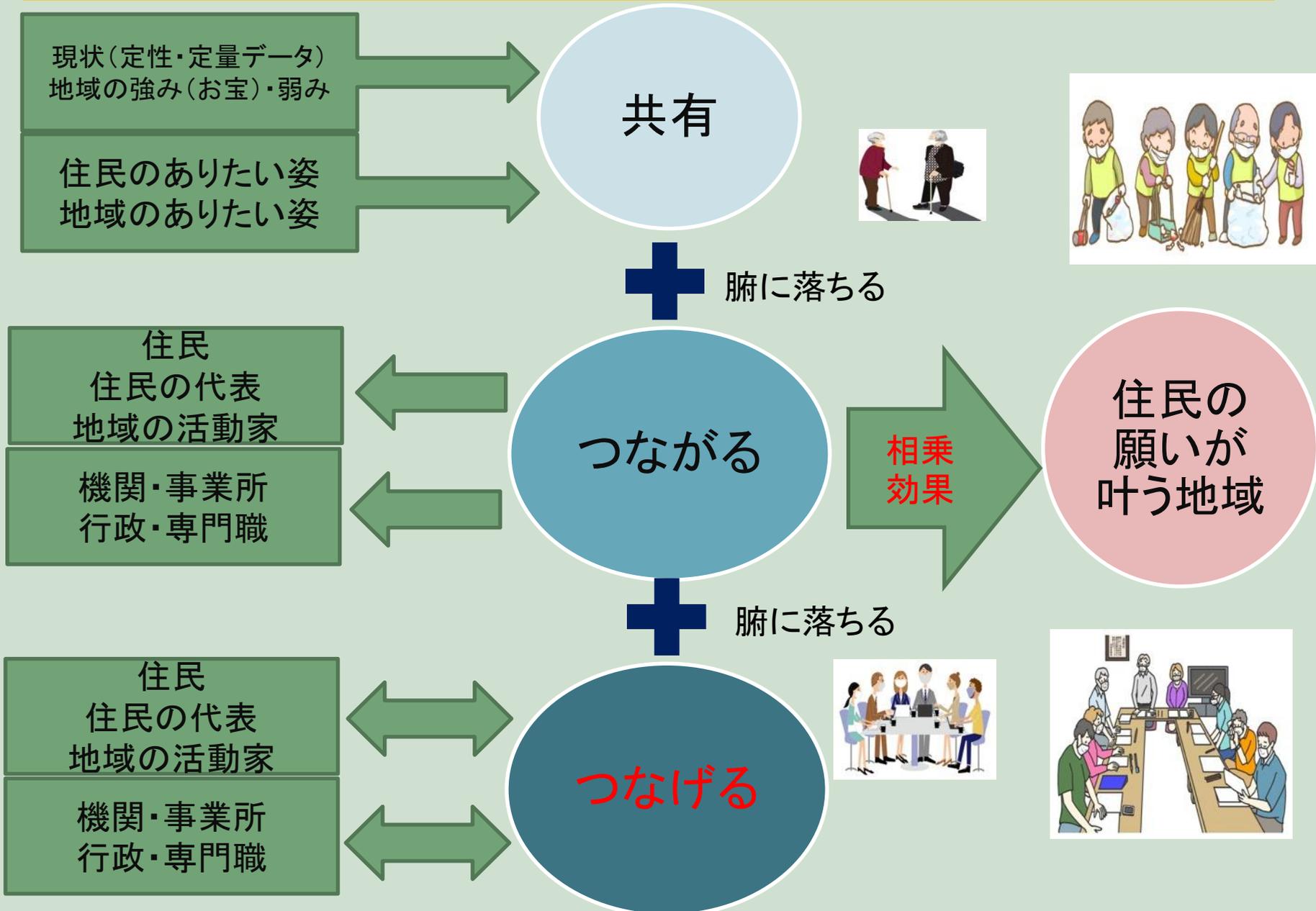
提案するソリューションと高齢者等のニーズとのズレが生じていないかを確認

「長く健康でいたい」 「地域住民とつながりをもつ」ことは言語化として正確か？
「長く健康でいたい」 ⇒ 「いつまでもやりたいことをやりたい」 ⇒ 「・・・」
「地域住民とつながりをもつ」 ⇒ 「気の合う仲間と集まりたい」 ⇒ 「・・・」

新しく通いの場をつくらなくともどこかに集まる場所があるのではないか？

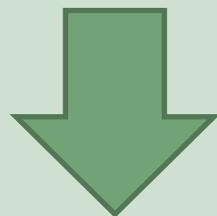
情報が不足していないかを確認

地域づくりにおける加速化の肝



地域づくり加速化のポイント

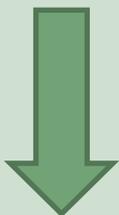
相手に合わせてプレゼンテーション（相手によって響くポイントは違う。そのために 相手をよく知る）



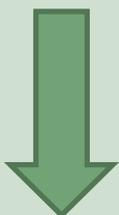
肝はコミュニケーション

腑に落ちるコミュニケーションが良い変化を生む

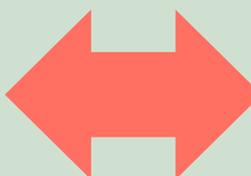
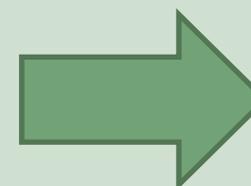
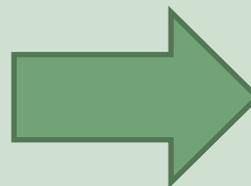
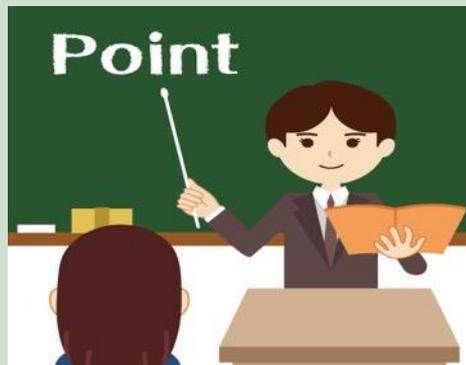
伝える



腑に落ちる



変わる



正しく恐れて自分らしく暮らす

新しい生活様式で健康を守る



地域のつながりを大切に
して孤立防止



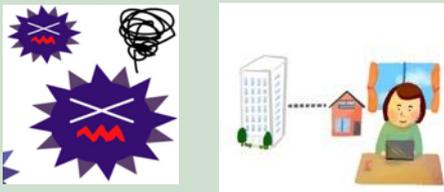
家庭が基本



新しい楽しみ方



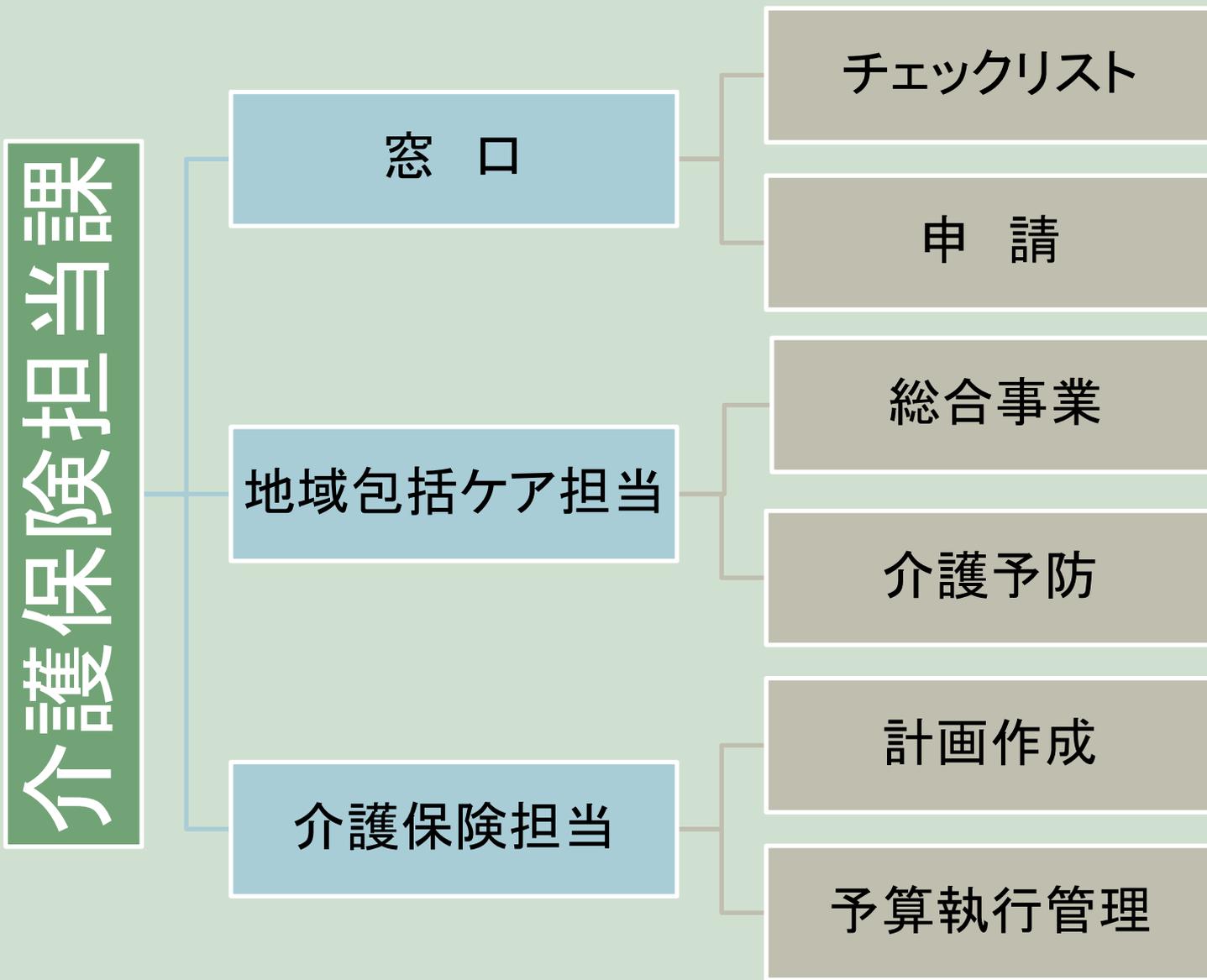
新しい働き方



友人知人を互いに
気に掛け合う



庁内連携の前に課内チーム作り



事業推進のポイント

異動

- 異動を前提とした事業展開になっているか
- 事業の継続性が担保されているか

根拠

- 各種計画に基づき事業が展開されているか
- アウトカム評価、インパクト評価が行われているか

マネジメント

- 連携・協働・連動の肝はマネジメント
- 事業の進行管理が行われているか

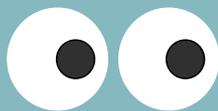
根付かせる仕組み作りが重要

地域づくりにおける プロジェクトマネージャーの役割



住民のありたい姿に近づくために 我が町を知るための視点

鳥の目



広い視野で地域を俯瞰的に捉えて、
地域のありたい姿を目指す視点

統計やアンケートなどの定量的
データを用いた市町村の現状把握

魚の目



時間軸を点として捉える
のではなく、動きを
見極めながら線として
捉える視点

地域や具体的な対象者の
状態像の変化を捉えながら、
地域とペルソナの願いを叶える
戦略の立案

虫の目



具体的な対象者を明確にして、住民の
住みなれた地域の暮らしを理解し、
ありたい姿を理解する視点

地域に入り、具体的な対象者個別の
定性的データを用いて現状把握

住民のありたい姿に近づくために我が町を知る



05地域資源（お宝）
を把握して説明
できる



03地域の定性データを
共有・分析して
説明できる



01住民のありたい姿を
理解して説明
できる



04地域の定量データを
共有・分析して
説明できる



02地域のありたい
姿を理解して説
明できる



見える化が大切（活動記録・報告書・計画書・工程表・パンフレットなど）

地域包括ケア推進の目的の明確化

- 心身の健康の維持向上
- 自然な支え合いの意識化によるつながりの強化
- 協議の場の設置で地域資源や課題の共有
- 個別支援と地域支援の連携・協働
- 1人1人の願いがかなう地域づくり

地域づくりにおける連携・協働・連動とは

連携

- お互いに連絡を取りながらそれぞれの活動を行っている(ネットワーク)
- 情報共有の場を持っている
- 独自の支援方針を持っている

協働

- 共通の支援方針を持っている
- 役割分担が行われている(チーム)
- 定期的な情報共有の場を持っている

連動

- 個々のニーズに応じた戦略にそって事業が推進されている
- 進行管理が行われている
- 個別支援と地域支援を俯瞰しながら複数の連動により事業推進

地域づくり

連携・協働・連動の前提条件

- ・住民のありたい姿と地域の現状を理解しているか
- ・担当者が事業の必要性と効果を理解しているか
- ・担当者が上司や同僚へ事業の協力を得るための働きかけができているか
- ・地域の文化を理解しているか
- ・地域への事業展開の戦略を立てているか

連携・協働・連動の留意点

事業推進を
目的化しない

- 連携・協働・連動することを目的化しない
- つどい場や支え合い活動を作ることを目的化しない(例示)

定性的データと
定量的データの
分析力を持つ

- 視野を広く持つ
- 住民・専門職他の部署から学ぶ

腑に落ちる
コミュニケーション
力を磨く

- 聞いて分かる力が入り口
- つながって共有の積み重ねが重要

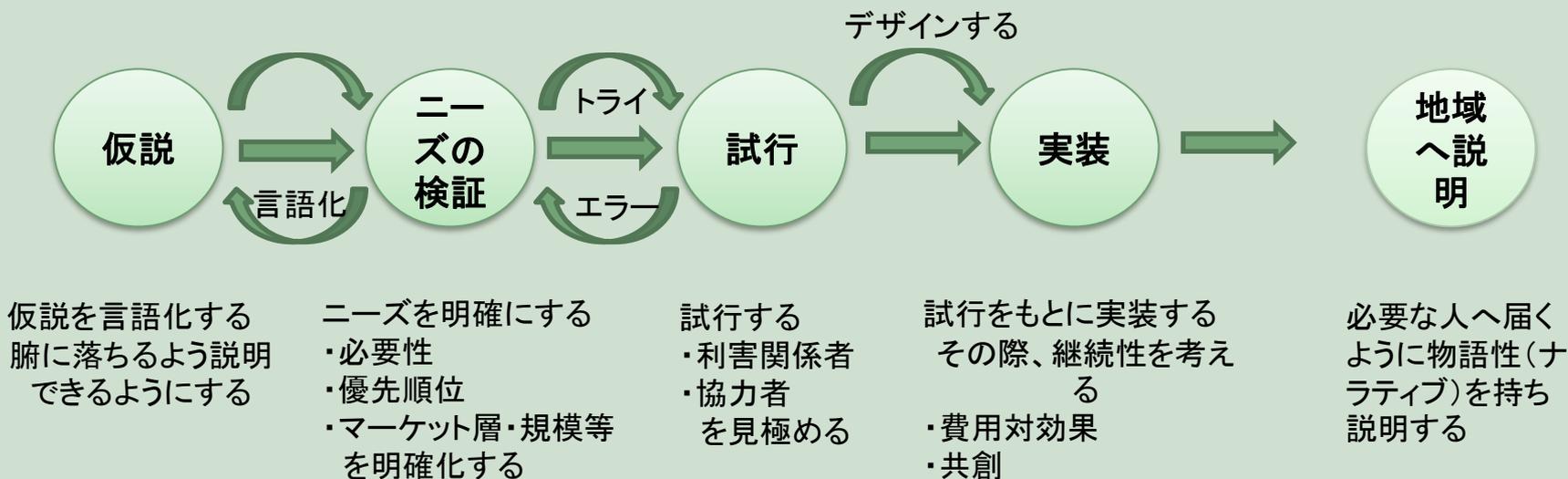
住民がつながるつなげる為に必要なこと

- ・住民のありたい姿の重要性を理解している
- ・住民のありたい姿を聴取する手段を有している
- ・住民が腑に落ちるように定量データを説明できる
- ・住民が腑に落ちるように事業を説明できる
- ・住民のモチベーションを維持できるかわりができる
- ・事業の見える化を行い適切に事業評価できる

地域づくりに必要なプロジェクトマネジメント①

～全体像～

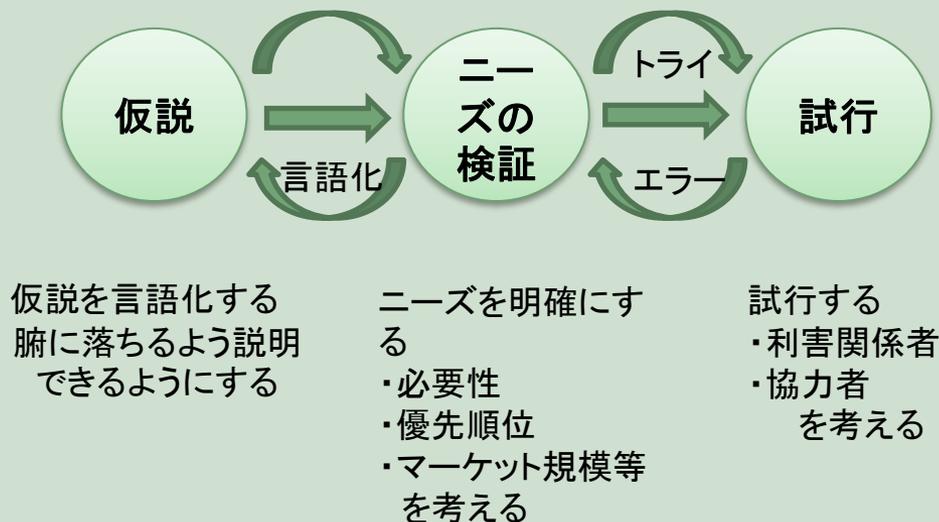
- 最も重要なことは、初期の「仮説」を具体的に「言語化」すること
- ニーズの検証に当たっては、対象者のより具体的な設定(ペルソナ)を意識する
⇒これにより、仮説が成り立つ市場(マーケット)が存在するかを確認する
- 「試行」により、利害関係者(ステークホルダー)や協働者(カウンターパート)を見極めていく
- 実際に取り組を開始(実装)する際、行政の役割として「コストを考える視点」と地域に対する語り掛け(ナラティブアプローチ)を実施する必要がある



地域づくりに必要なプロジェクトマネジメント②

「仮説」の言語化と「検証」「試行」の繰り返しの重要性

- 最も重要なことは、初期の「仮説」を具体的に「言語化」すること
- そのうえで、即時に「実装」（正式なリリース）を行うのではなく、「ニーズの検証」及びスモールステップでの「試行」をトライ&エラーで繰り返す
- 必要に応じて「仮説」の再設計及び言語化に立ち戻る
- 十分に成果・効果が確認できたうえで、「実装」へと進む



共創イノベーションによる地域づくり

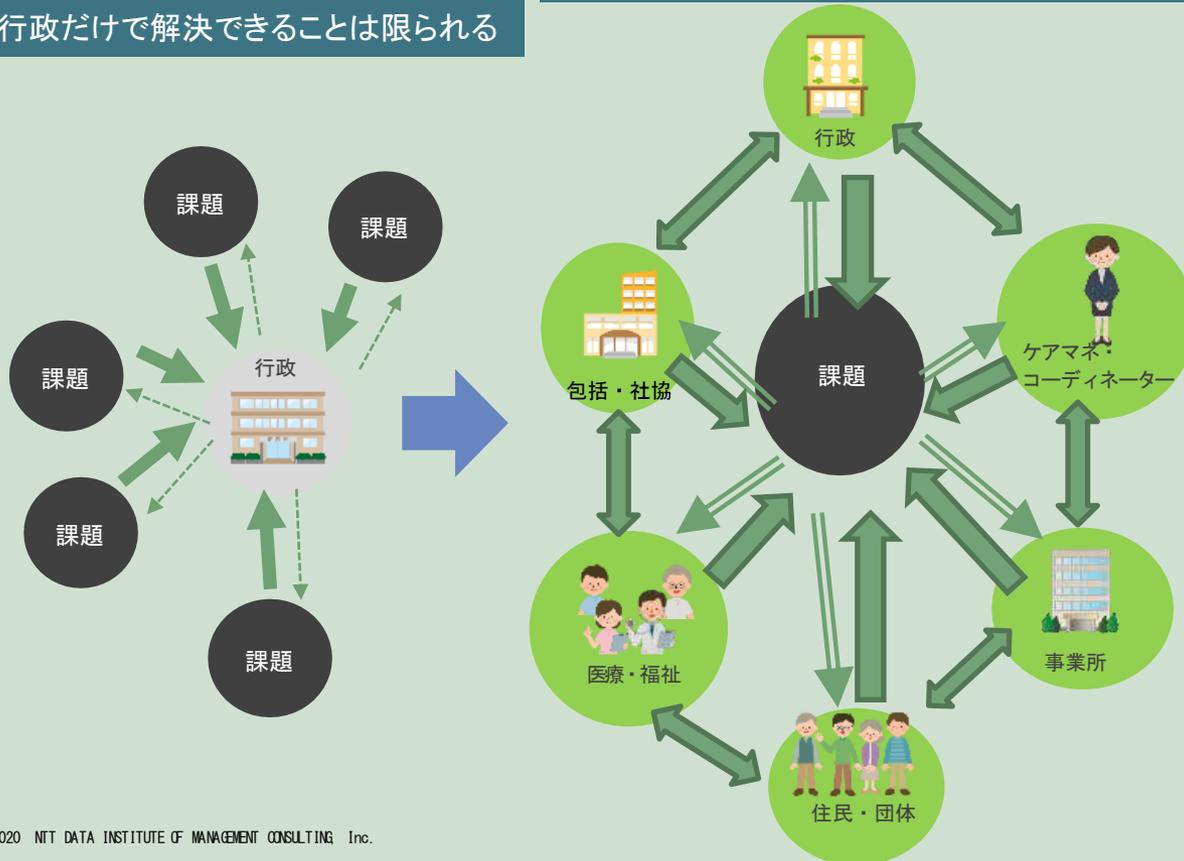


多様な主体との協働に向けて

- ・ 持ち込まれる課題は、行政が単独では解決できないものが増えている。
- ・ 行政に対する期待が、住民の不安に比例する
- ・ 行政は、多様な機関と課題解決に向けて解決策を検討するのではなく、行政と多様な機関が、課題を我がこととして捉える働きかけが重要
- ・ 課題を我がこととして捉えるためには、データだけではなくエピソードが重要

地域の関係者と課題を我がこととして共有し、
協働して解決に向かって取り組んでいく

行政だけで解決できることは限られる



課題共有の方法例

- ✓ 暮らしをエピソードで見せる
- ✓ 良くない地域の状況を映像等で見せる
- ✓ エピソードから見える課題の深刻さを量的データ（数字）で示す
- ✓ 変化（トレンド）を数字で示す
- ✓ 将来予測を数字で表す
- ✓ こうなったらいいなという「目指す姿（ありたい状態）」を見せる

多様な主体との協働に向けて

- 組織として取り組むためには、個人的な共感・納得だけでなく、組織の論理（行動原理）に配慮しなければならない。

－ 動機付けのために必要なこと －

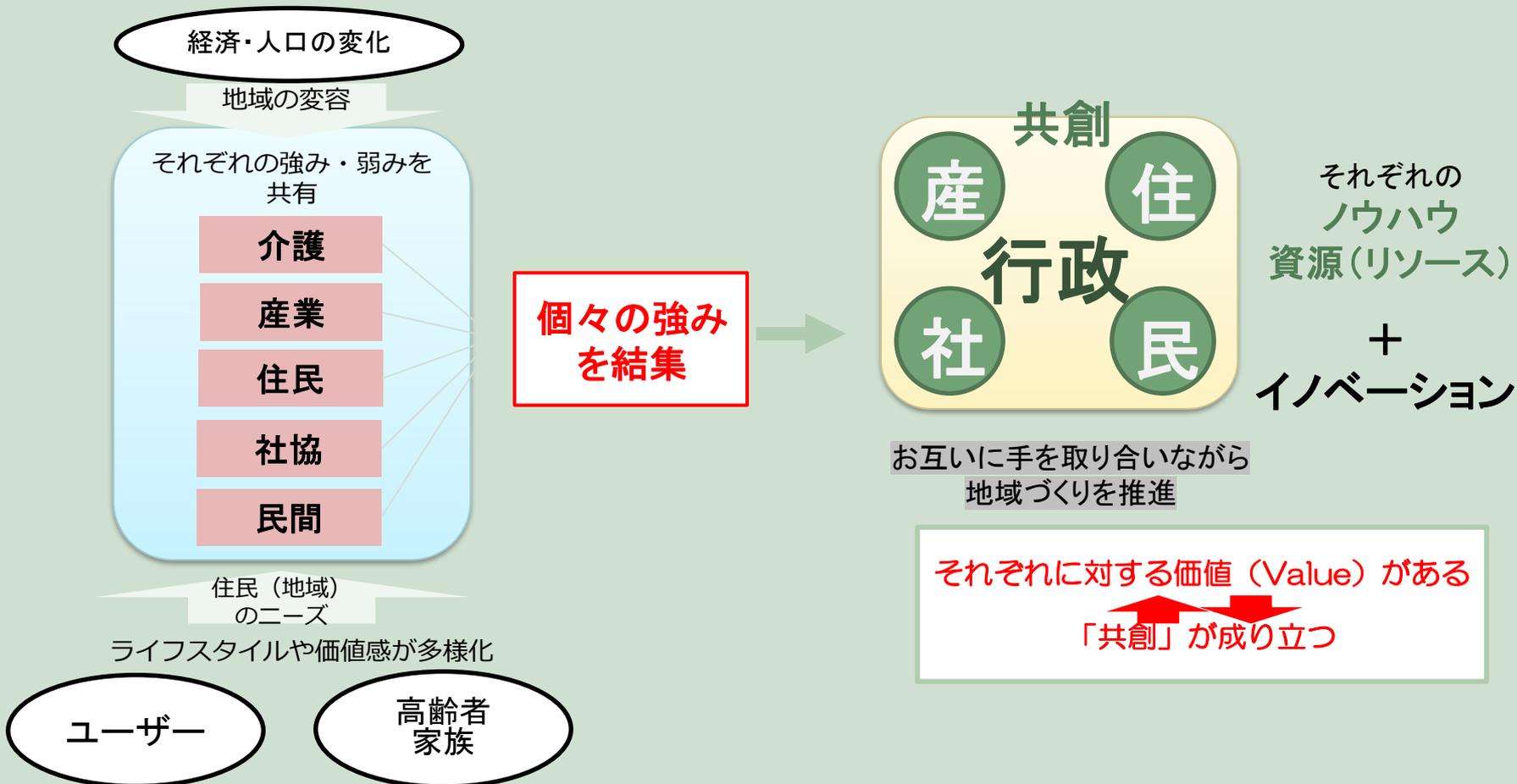
- ✓ 個人の想いとは別に組織の理論がある
- ✓ 組織にとってのメリット（WIN-WINの関係）は何か？
- ✓ 相手のメリットを見い出すためには、まず、相手を知ること（目指していること、ミッション、制約等）
- ✓ 解決したい課題との関係する側面を見つけ、意味づけをする（日頃の活動を少し変えるだけで影響が変わる）

－ コアチームには戦略性が求められる－

- ✓ 解決したい課題とともに、誰と何をしたいのか、明確にする
- ✓ 庁内外問わず、資源（解決の担い手）探しをする
- ✓ どうしたら同じ目的に向かって一緒に動けるか、作戦を立てる（相手のメリットが必要）
- ✓ 相手に合わせてプレゼンテーション（相手によって響くポイントは違う。そのために相手をよく知る）

共創イノベーションによる地域づくり

- これからの社会においては、地域ごとにある関係機関・者が、それぞれの強みを活かし、相互に手を取り合いながら地域をつくっていくことが肝要（=共創イノベーション）
- さまざまな産業の多様な主体が、それぞれ強みを活かしながら活動してきて今日を迎えており、その強みを認め合うことが、地域づくりの第一歩となる



明日からできる取り組みのヒント



地域づくり加速化推進の悩みと打ち手

- Q. ㉑集いの場やサロン立ち上げも、「こんなのいらない」と言われて、どのように対処したらいいか悩んでいる。
- ㉒地域と積極的に関わらない高齢者に対して、どのように介入したらいいかわからない
- ㉓包括とSCの日頃の連携が課題だと感じている。（仕事でバタつくときは、SCとコミュニケーションが取れていない）
- ㉔地域住民同士のつながりが希薄。「地域に関わりを持っていない」が「余力がある」人の目を、どのように地域に向けることができるか。地域づくりに積極的な人との温度差をどのように埋めることができるか。
- ㉕集めた地域資源をどのようにして住民に還元していけばよいか。
- ㉖住民主体の活動に、生活支援コーディネーターとしてどの程度関わるべきか。（まちづくり協議会の立ち上げに関わっているが、どの程度まで関わるべきか。）
- A. ①地域包括ケアについて組織内、チーム内でどの様に共有しているか
- ②当該地域の状況について地域包括ケアの視点から説明できるか
- ③地域のありたい姿を共有出来ているか
- ④個別の対象者のありたい姿を当事者・チーム・組織で共有しているか
- ⑤地域包括ケアについてどの様に伝えて、住民と共有出来ているか

課題検討のヒント

- 目的を明確にして取り組む
- 地域の課題を解くカギは地域にしかない
- 住民のありたい姿に対する現状を具体化して、見える化する
- 地域の文化と伝統、知恵と工夫を住民から学び見える化する
- データから読み取れることは現状
- 視野を広く持ち、地域全体から捉える視点と住民個人から捉える視点が必要。（根拠に基づいて捉える）
- “課題” はありたい姿に近づくための打ち手を導き出す指標
- 阻害要因と促進要因を探る。どうしてそうなっているのか（Why）？を掘り下げる
- ショートゴールの積み重ねが、ありたい姿に近づく近道
- 腑に落ちる説明がモチベーションの向上につながる

生活支援体制整備事業担当者向け資料

令和4年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業
都道府県による市町村支援に活用するための支援パッケージ策定に係る調査研究



地域づくり加速化事業 全国研修会

・以下のURLより全国研修会の
動画及び資料が閲覧できます。

<https://jmar-form.jp/localaccellist.html>

1. 地域づくりにおける市町村の役割とは
 - ・ 第1部 総論 第1章わたしたちが目指すことP8～P14
2. 生活支援コーディネーターに求められる活動とは（特に委託の場合）
 - ・ 総論 第1章わたしたちが目指すことP8～P14 . . . この部分の共有
3. 市町村職員はCoとどのように関わると良いか
 - ・ 生活支援体制整備事業 P128～P140
4. どのようにCoを支援できるとCoや地域住民にとって良いか
 - ・ 通いの場 P115～P127
5. 根拠に基づく地域づくりの方法や事業展開の戦略の重要性
 - ・ 第二部 仮説と検証による総合事業の見直しプロセス P63～P79
6. 地域包括ケアシステムにおける連携・協働・連動の意味について
 - ・ P25～P26
7. 成果の設定について
 - ・ P23 参照 P20～P22 P25～P26
8. 明日からできる取組のヒント
 - ・ 本文中の困み記事の活用する情報・データ例、大事な視点を参照

まとめ



地域づくりの加速化：市町村が地域の力を 総動員するために必要なこと

地域づくりは1人ではできない

- 担当者は抱え込まない、担当者を孤立させない

住民・行政・専門職・関係者との対話

- 対話を重ねて、ゴール設定が最初

ともにできること・できそうなことを協議

- 一人ひとりの「つぶやき」から「協議の場」へ

地域づくりの加速化：

市町村ごとのリソースの違いに合わせた
地域のサービスづくり必要なこと

活動して出来ることを大切にする

- ・分かることと出来ることの違いを理解する

つながり・共有して・つなげることができる

- ・腑に落ちるコミュニケーション力の向上

道具を使いこなす力を身につける

- ・連携・協働・連動は、地域包括ケア推進の道具

まとめ（地域づくりの加速化）

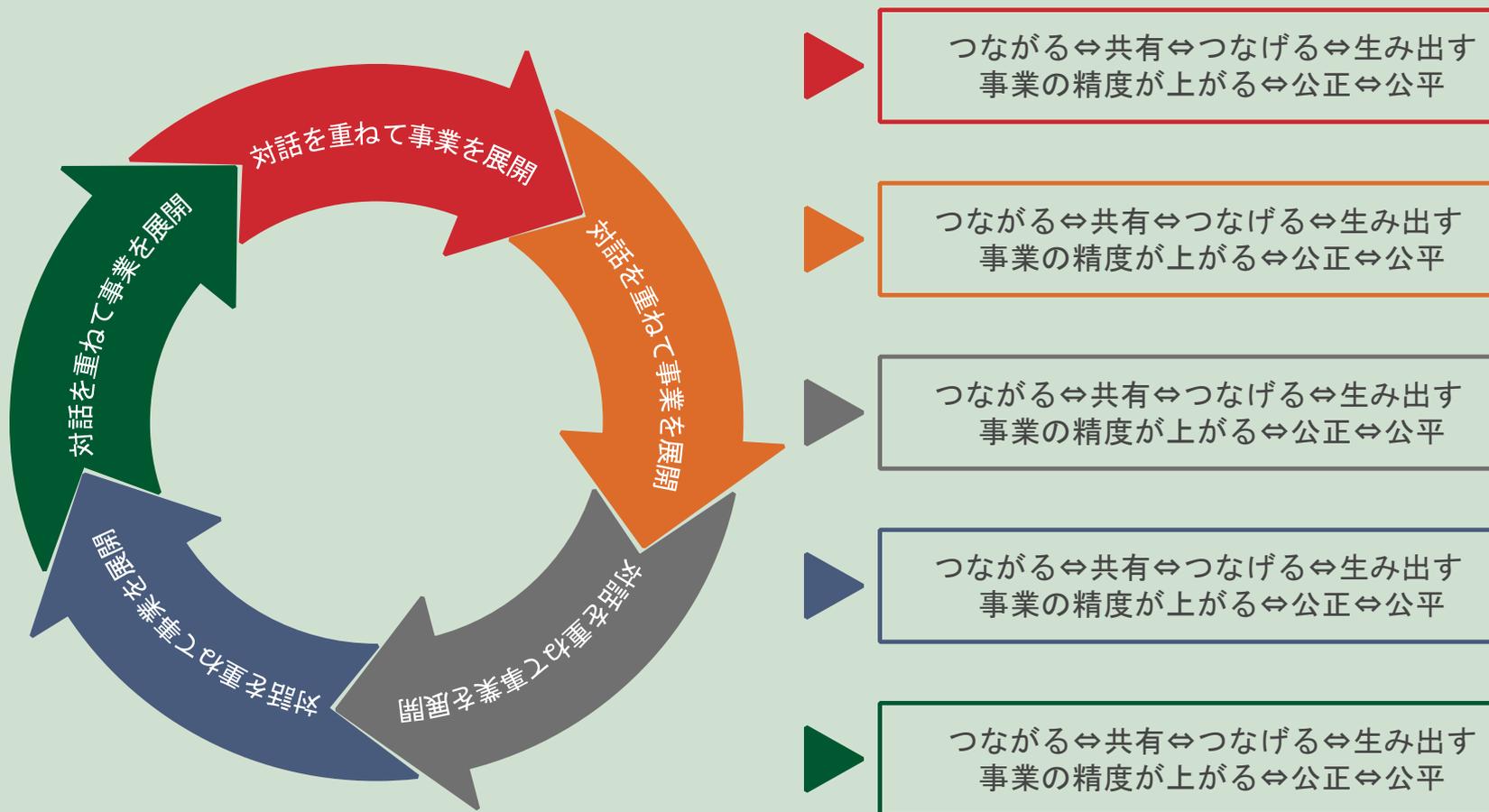
1. 地域や高齢者の強みに焦点を当てて、地域の変容を多面的に捉えることが重要
2. 地域にある資源は、全て地域が必要としているもの。共創の文化が定着することで地域が更に豊かになる
3. 仮説を立ててニーズをアセスメントして、スモールステップで試行を繰り返し積み重ねることが、事業の精度を上げる
4. プロジェクトマネジメントが、公正公平な地域づくりの加速化につながる

まとめ（地域づくりの加速化）

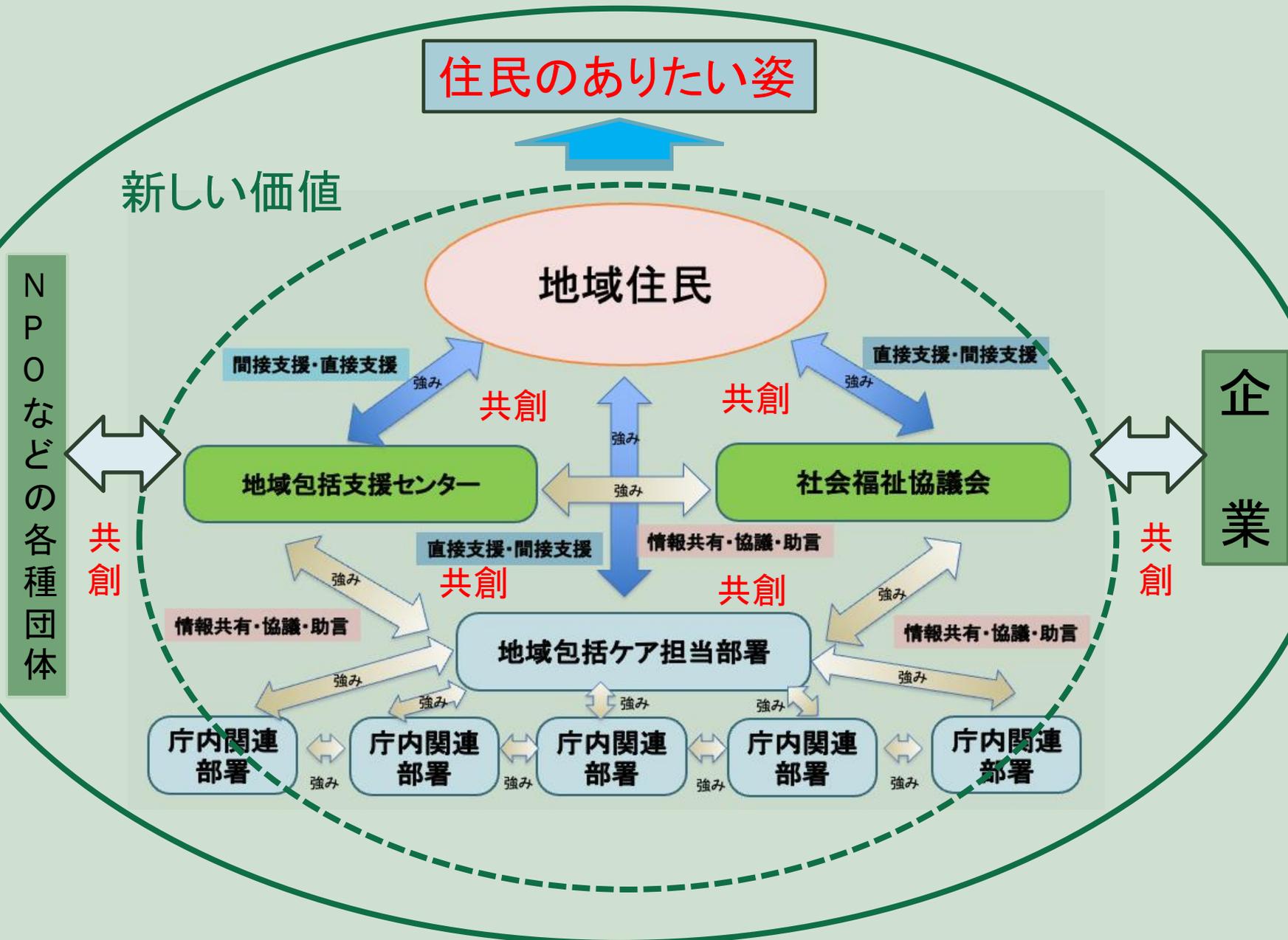
5. 地域づくりの加速化は、地域の力を総動員して活用することが重要
6. 地域づくり加速化の仕組み作りは、豊かな地域のリソースを多面的に捉え、多様なニーズに生かすことがポイント
7. 地域づくりの加速化では、地域包括支援センターや社会福祉協議会等が司令塔として、ありがたい姿に向けて「つながる、知る」のプロセスを繰り返しながら新たなアイデアを生み出すことが大切
8. 地域づくりの加速化は「高齢者一人ひとりの多様なニーズにタイムリーで柔軟に対応する」ことができる事業である

地域包括ケアを実装するポイント

地域づくりは地域包括ケアで加速化



対話を基に強みを生かした共創による地域づくり



—地域づくり加速化事業ブロック研修会—

「ここで生きる」その想いをつないで



2024年1月24日

NPO法人ふれあい福祉の会
山びこへるぷ

酒井やよい

あいのままの島田島は自然と笑顔がいっぱい



H10年 ボランティアグループ「やまびこ」 小さな島の助け合い活動

「その日お会いして、
その日のお気持ちに添う支援を目指して」



あっという間に鳴門市内全域にひろがる！

地域活動の輪を広げてく活動支援



- ▶ ♪ さわやかインストラクターとして・・・新たな団体への立ち上げ支援や運営支援！
- ▶ 「みんな一緒に」地域の中で共に生きる共生社会づくり

地域で自分の思う暮らしを続けていきます



A photograph of a dense forest with sunlight filtering through the green canopy, creating a bright starburst effect in the upper left quadrant. The trees are lush and green, with a thick layer of leaves and branches. The overall atmosphere is serene and natural.

これからの地域活動の在り方って？

ご清聴ありがとうございました

